

風景 工芸王国

■ 53

美川仏壇 ①

今年は親鸞聖人の750回忌の年である。「真宗王国」と呼ばれるこの地の人々のあつい信仰は、工芸王国のすそ野を支える役割を果たしてきた。

白山市徳光町、真宗大谷派明證寺は今年の御遠忌に向け、美川仏壇の技で「内陣」を修復した。本尊が安置された巨大な本堂の仏壇である。堅牢なことで知られる美川仏壇ならではの高度な技術が詰まれている。

心のよりどころ

「仏壇店はお寺の修復までは、やらんと思っとったが、直す前とは全然違う。ぴかぴかや」

修復委員を務めた北村三昭さん(68)＝白山市徳光町＝は、内陣を前に、満足そうに目を細めた。

本堂は1887(明治20)

工程見せて 信頼を得る

本物は地元にある

年の建立以来、地区の心のよりどころとなってきた。住民

から浄財約6千万円を集めて屋根を直し、その一部で内陣を修復することになったので

問題となったのは、どこに内陣の修復を依頼するか、であった。平野慶之住職(35)は当初、本山のある京都の業者

に頼もうと思っていた。経験が豊富に蓄積されていると考えたからだ。

ところが、修復委員の間からこんな声が上がる。「値段が高い安いという以前に、地元でやらんかいや」。

白羽の矢が立った美川仏壇の技が

のが、美川仏壇を手がける北島仏壇(白山市美川新町)である。

美川仏壇の4代目塗師、北島昭浩さん(46)はその狙いをこう語る。

「仏壇は、見る人の感情を揺さぶり、心を動かすものです。近くに住むお客さんには、現場に来てもらい、じかに見てもらうことにしています」

一つの製品ができるまでの工程を顧客に見てもらい、理解してもらい、感動してもらう。北島昭浩さん(46)はその狙いをこう語る。

「仏壇は、見る人の感情を揺さぶり、心を動かすものです。近くに住むお客さんには、現場に来てもらい、じかに見てもらうことにしています」

「仏壇は、見る人の感情を揺さぶり、心を動かすものです。近くに住むお客さんには、現場に来てもらい、じかに見てもらうことにしています」

「仏壇は、見る人の感情を揺さぶり、心を動かすものです。近くに住むお客さんには、現場に来てもらい、じかに見てもらうことにしています」



美川仏壇の技が
つぎ込まれた明
證寺の内陣
＝白山市徳光町

「仏壇は、見る人の感情を

(宮下岳丈)